

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1 2

開催地：八代市金剛校区

平成 19 年 6 月 19 日（火）、八代市金剛校区（会場：金剛公民館）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

市内	19 名
市外	2 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（計画高水流量の検討にあたり）人吉の河床掘削と引提を組み合わせた場合の検討を行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河道掘削に加え、引堤や嵩上げ等の方法の組合せも考慮し、環境を含む自然的及び社会的制約の中で、河道でどれだけの流量を安全に流し得るのかという検討を実施しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床掘削時に人吉層が露出する問題が生じるとのことだが、必要な量の掘削を行った後に、河床部をセメント、砂、石などで補強する計画を考慮したことはあるか。また、砂や砂利の層が必要ならば、余分に掘削した後に砂利や砂を戻して補強を行い、鮎が生息できる状態に戻すような計画、計算を考慮したことはあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人吉層を余堀したうえで砂礫を河床に戻したとしても、掘削前のように砂礫が河床に留まることは難しいと考えられます。もし、砂礫河床が喪失することになれば、河道維持や環境の面で取り返しのつかない状況になると考えています。 仮に、このような大規模な河川工事を実施しようとする場合、アユ等の生息環境への配慮や舟下り運行への配慮等から工事を施工できる期間が制限され、工事は非常に長い期間を要することとなり、生活環境や観光等への影響も考えられます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本高水流量の計算の際に、なぜ S40 年洪水がはずされたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人吉地点の基本高水流量の算出にあたっては、過去の主要洪水の降雨を 80 年に 1 回の確率規模となるよう引き伸ばす一般的な方法で検討しています。 昭和 40 年の降雨については、実績の波形のうち 12 時間雨量を計画雨量に引き伸ばした場合、短時間雨量が非常に大きな確率規模となったため、これを採用しないこととしたところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小委員会では、想定外の大洪水にどのように対応したらいいかといった検討はなされたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動等による集中豪雨が頻発している状況も踏まえ、基本方針で想定している規模を上回る洪水や施設の整備途上での洪水の発生も想定し、ハード対策と併せてハザードマップの整備等のソフト対策にも重点を置き、被害の最小化に向けた取り組みを実施していく必要があると考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準点が何故、萩原地点から横石地点に変更されたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事实施基本計画を策定した昭和 41 年当時は、横石地点を含む球磨川中流部が県管理区間となっていたことから、八代市街地の上流部に位置し、国管理区間にある萩原地点を基準点としていたものです。 現在は、球磨川中流部も国管理区間となっており、堰の湛水による影響や発電用水の還元等を考慮すれば、横石地点を基準点とすることが適切であると考えています。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ計画降雨継続時間が2日間雨量から12時間雨量に変更されたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画降雨継続時間の設定にあたっては、日雨量データではなく、任意の時間帯の雨量を扱える時間雨量データを用いることが望ましいところです。</li> <li>しかしながら、工事実施基本計画の検討時点では、日雨量が39年間、時間雨量が13年間というデータ蓄積状況であったことから、80年に1度という希な現象を検討することを念頭に、より多くのデータ数を有する日雨量を用いました。また、それらのデータの中には日界である午前9時をまたぐ降雨も含まれていたことから計画降雨継続時間を2日と設定していたところです。</li> <li>今回、基本方針を検討するにあたっては、時間雨量データが53年間と蓄積されたこと、また、洪水のピークの流量がピーク流量発生時刻までの洪水到達時間内の降雨に大きく影響されること等を考慮した結果、12時間雨量に変更したところです。</li> </ul>
<p><b>【球磨川の治水対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民討論集会の議論では、人吉の市街部の上流からバイパスをつくって、その間に人吉区間を掘削するという案があったが、小委員会の中では議論されたのか。</li> <li>・人吉において河道で流す流量を増やすと中流部で再度の嵩上げ工事が必要とのことだが、坂本地区だけでみると数世帯であり、H18.7の洪水でも坂本地区の嵩上げをしたところは大丈夫だった。</li> <li>・人吉市街部で、バイパスと下水道整備を併せてすすめれば効果的ではないか。また、河床掘削、堤防嵩上げ、ため池整備などを組み合わせた計画の検討を行ったのか。</li> <li>・ある箇所を掘削してもその上流、またその上流とすすめていかなければならない。何度やっても同じ、最上流の山の方から削っていかなければできない。山を平らにするようなもの。</li> <li>・球磨川で抜本的な治水対策をするならば、掘削ではだめ。</li> <li>・坂本地区の浸水被害には荒瀬ダムの影響は無いのか。</li> <li>・中流部の対策は早急に進めるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針を策定するための小委員会であることから、小委員会ではバイパス河川等の具体的な河川整備ではなく、長期的な河川整備の目標等の河川整備の基本的な方針について議論しました。</li> <li>いただいたご意見は、今後策定する河川整備計画の検討の参考とさせていただきます。</li> <li>・人吉において河道で安全に流す流量を計画高水流量より増やそうとすると、中流部全体で再度かさ上げ工事が必要となる世帯は300世帯余になると想定され、この対応は現実的ではないと考えます。</li> <li>・バイパス河川などの具体的な施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなりますので、いただいたご意見は、検討の参考とさせていただきます。</li> <li>なお、計画高水流量については、基本方針の小委員会の中で、河床掘削、堤防嵩上げ、川の拡幅を組み合わせることで検討を行い、人吉地点で安全に流せる流量は4,000m<sup>3</sup>/sであるとの結論に至ったところです。</li> <li>・ご意見のとおり、局所的な掘削では、すぐに土砂が埋まる可能性が高いと考えられます。従って、広範囲に亘って一気に掘削する必要がありますが、自然的、社会的な影響を考えると困難です。</li> <li>・ご意見のとおり、自然的、社会的な制約を考慮すると、基本高水流量を安全に流下させるために河道掘削だけで対応することは困難であると考えられます。</li> <li>・荒瀬ダムの下流にある坂本地区ではご指摘のような影響はないものと考えられます。</li> <li>・浸水被害に遭われている方々に対しましては、河川管理者として大変申し訳なく思っております。</li> <li>球磨川中流部では、現在も宅地嵩上げ等の治水対策を進めており、現在のところ、42地区のうち10地区が完成し6地区で事業を</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S40 年洪水では金剛橋が流されており、地元で大きな被害をもたらした。S40 洪水に対応した河川整備計画を作らないと再びあのような被害が起きるのではないか。</li> </ul>	<p>実施中です。家屋数で見れば、事業中の箇所も含め約 7 割の整備率となっています。しかしながら、未対策の箇所もございますので、支川管理者である県等とも調整しつつ、できるだけ早期に対策を実施できるよう努力していきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川整備基本方針で定めた基本高水流量に対して河川整備を実施した場合、昭和 40 年 7 月と同等の規模の洪水に対して安全性は確保されると考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダムや堤防を造っても（想定外の外力がくれば）、S40 のような災害がおこるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 18 年の川内川をはじめ、各地で集中豪雨が頻発し、計画規模を上回る洪水が発生しています。ご意見のとおり、想定外の洪水は発生する可能性はあることから、その場合でも被害を最小限に防ぐことができるよう、堤防の整備等のハード対策だけでなく、市町村とも連携をして、ハザードマップの整備など避難警戒体制の一層の充実に努めてまいりたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風時の高潮を考慮した治水計画が立てられているのか。</li> <li>・ 堤防の上にあげた舟が濁流によって流された経験をしたことがあるが、その時に上流のダムの放流が原因だと聞いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高潮及び洪水の両方を考慮した治水計画を立てています。</li> </ul> <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダムからの放流は、ダムに貯留した水を一気に流すということではなく、洪水調節時は流入量の一部をダムに貯めて流入量より少ない量を放流しており、放流量は、流入量を上回ることはありません。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 満潮の時間を考慮したダムの放流操作が行われているのか。</li> </ul>	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 降雨が少なくなり、ダムへの流入量が減少した後、次の大雨に備えて、下流の状況を見ながら、放流するようにしている。しかし、市房ダムから約 90 km 離れている下流の球磨川河口付近の状況を見ながら操作を行うことは現実的でなく、人吉付近の水位の状況を見ながら操作を行っております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダムが八代にとって洪水調節の効果を発揮できる確実性は無いのではないか。</li> </ul>	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市房ダムは、流入量より放流量を少なくしており洪水調節機能を果たしています。ただ、市房ダムの対象流域は、球磨川流域全体からすれば少なく、下流に行くほど市房ダムの対象流域の割合がさらに小さくなることから、水位低減効果も小さくなります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の洪水は横石地点では何 m<sup>3</sup>/s 流れたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 速報値であり確定値ではありませんが、平成 18 年 7 月洪水の横石(八代市)地点流量は約 7,100m<sup>3</sup>/s でした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この橋のここまですれば何 m<sup>3</sup>/s というふうに、どのくらい流れたらどこまで水位が上がるか目安として教えて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご指摘のとおり、例えば、橋梁の橋脚に危険水位等の線を引くなど、多くの方に出るだけ分かりやすいような取り組みを実施していきたいと考えています。</li> </ul>
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河床に砂利が無いと鮎が育たない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご意見のとおり、アユなどの生息には河床に砂利が必要と思います。アユなどの魚類の生息に十分配慮した河川整備を行っていく必要があると考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔のように水島から水が出るように水脈調査や対策を行って欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 球磨川河口にある水島は、昔から地域の方々に親しまれており、全国にも誇れる貴重な文化的遺産であると認識しています。ご</li> </ul>

指摘のあった件は大変難しい課題を抱えていると思いますが、国土交通省としても保存・維持について何らかの形で協力できればと考えています。

- ※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。
- ※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。